

令和6年度 第3回裾野市総合計画策定協議会

ワークショップ



1

本日のプログラム

時間(目安)	内 容
18:30	開会・挨拶 本日のプログラム
18:35	1 全体のスケジュールの確認 2 前回のふりかえり 資料2
18:45	3 グループワーク ① 4 グループワーク ②
20:15	5 グループ発表
20:30	閉会・次回について

※ 休憩はグループごとに適宜とする予定です

2

全体のスケジュール

	テ ー マ	開催日
第 1 回	裾野市の望ましい将来像について ・ 裾野市の未来についての意見交換	11/11 (月)
第 2 回	「みんなが誇る豊かな田園未来都市すその」の実現 のために必要なこと ・ 各分野の現状と課題 ・ 実現のために必要な取組み	12/13 (金)
第 3 回	「後期計画において重要（大切）な取組み」を考える ～第 2 回の意見をもとにプロジェクトを作成～	1 /30 (木) 〈本日〉
第 4 回	「後期計画策定に向けたまちづくりの提案」を発表 ～グループごとに提案をまとめて発表～ プレゼン	3 / 6 (木)

3

前回のふりかえり

※のちほど、自分の担当する大綱（グループ）以外のまとめの中から、将来像を実現するために、**重点的に進めるべきだと思う取組**を**5つ選んで投票**していただきます

4

前回のふりかえり 将来像の実現のために必要なこと（大綱別）

大綱1 ひとりひとりが役割を持ち輝けるまち 〈子育て・教育・健康・文化〉

凡例 現状と課題 実現するために必要なこと ○いいところ、よくなったところ

大綱2 地域資源を活用した魅力あふれるまち 〈産業・観光〉

凡例 現状と課題 実現するために必要なこと ○いいところ、よくなったところ

子育て支援

- 乳幼児サポートが充実してきている
- 新人ママのサポートは充実してきている
- ・子どもを世話する（人）が足りない
- ・親子で気楽に集まることが出来る場所づくり（子どもだけでも行ける）
- ・小学生の放課後の居場所の確保
- ・子どもの居場所は集約できない。分散が必要
- ・外国にルーツを持つ子どもへの支援

部活動

- 「消防団クラブ」（＝団員が指導者をつとめる多目的スポーツ教室、東分団）は裾野だけ→参加費・送迎不要
- ・部活動の地域移行（活動場所、指導者）
- ・部活動の参加率が低い
- ・スポーツ指導者になるための資格取得
- ・消防団クラブを各地区で！（消防団に限る必要なし）
- ・複数のスポーツを体験する場所づくり
- ・ネットワークづくり（種目など）
- ・指導者講習会の開催

健康増進

- ・大人のスポーツ参加の機会
- ・スポーツ教室の計画・開催
- ・スポーツ施設の無償開放

コミュニティ

- ・地域の活動がわからない
- ・地域の教育力（＝子どもの名前を100人呼べる大人がどれだけの人は高まっているか）
- ・同じ地域・地区の人たちで集まることが少なくなった
- ・近くに住む人がどんな人かわからない

- ・独居老人の地域参加
- ・老人のスキルの伝達（遊び、竹細工・園芸・菜園）
- ・地域内で子どもと大人が知り合う場を生み出す（例：自治会単位で何もしない会合）

- ・各学校、自治会で何もしない会合をする
- ・大人から子ども、子どもから大人へ声をかけやすい近所づくり
- ・大人が参加したくなる地域イベント
- ・中学生期に地域との関係を切らさない！
- ・核となる人材の登録制度
- ・地域活動同士の交流できる場を設ける
- ・各地域での好事例の紹介と模倣
- ・世代間交流を行える祭・行事の復活
- ・子供会役員の負担軽減
- ・全小中学校でのトークフォークダンスの実施
- ・住民同士が雑談する機会を生み出す（例：防災訓練でトークフォークダンス）

- ・語り合う場 高齢者の知恵の伝承

- ・大人になっても学ぶことが出来る環境
- ・〇〇教室の開催

教育環境

- 「何にもしない会合」発祥の地！
- 夢（仕事）体験が厚い、リアル
- タブレットなど学習方法も新しくなり、楽しく学べる
- ・教育基本法第1条（社会の形成者の育成）を真ん中に置いて議論できているかどうか
- ・体験格差（経済的・時間的理由、価値観）→体験ゼロの再生産（悪循環）を止める

- ・高等教育を受ける機関（場所）が必要
- ・行かせたいと思わせる学校（高校）
- ・小中への地域の方の参加
- ・放課後イベントに、地域・学校の協働
- ・PTA 体験部！→体験0 解消のため。主催と共催事業を積極的に

その他

- ・公共交通の本数が少ない（バス・電車）
- ・魅力不足（人・物・金）
- ・買い物に車が必要（ホームセンター等）
- ・市外・県外に転出した方のふるさと納税（返礼品なし）
- ・コミュニティ交通の充実
- ・イベントからは脱却すること



農林業

- スガニがたくさんとれる
- 田舎で防災力は上がっている
- ・農産物のブランド化がされていない
- ・特産品がない
- ・魅力ある資産（特産物）を市民が認識していない
- ・田んぼが減った
- ・林業が消えている
- ・農林業を考えた資源としてのJ-クレジット制度（CO2の排出削減、吸収量等をクレジットとして国が認証する制度）

- ・ブランド化（すその rice、すその water、すそのシイタケとか）
- ・農業の特産物を市全体で作る（漢方薬）
- ・稲田をカラフル（絵）にする
- ・休耕地の活用
- ・1 千万を稼げるよう農地法の緩和
- ・農地の基盤整備（小規模）
- ・後継者の育成（JA との共同）
- ・森林の整備（スーパー林道の活用）
- ・山林の保全とJ-クレジットをセットに

ブランド化 森林の保全と農地の活用

観光

- スノゾカラ
- 佐野原神社に遠くから人がくる
- ・観光資源が近隣と比べて類似している
- ・裾野市の特色がわからない
- ・裾野市の知名度（が低い）
- ・情報（特色）が広く伝わっていない
- ・地域資源の定義ができていない。地域とは？
- ・観光資源が点
- ・観光資源のPR 不足
- ・観光資源がピンではインパクト小
- ・各地区に有る神社が活用されていない

- ・今あるものをより充実させる（パノラマロードのコスモス、桜）
- ・SNS と実物（説明板）の使用
- ・点在するものをつなぐ
- ・裾野市の特色の見直し
- ・PR の見直し
- ・情報の整理と発信
- ・特産品を PR（ホームページ、SNS、植樹とか）
- ・裾野くら（キャラクター作る）

魅力の発信 特色づくり 回遊性

商工業

- ・バリューチェーンごとの強みがない
- ・作ってから売るまでやれば儲かる
- ・ウーブンと周囲の関係性が？
- ・企業誘致に労働者を必要とする

住環境

- おいしい水、暮らしやすさ 気候、親切、交通、食べ物
- 駅西の再開発により防災に強くなっている
- 自然がほとんどに残っている
- 河川整備がよくできている
- 川の水がきれい
- 道路が広くなった
- ウーブンの景観が生かせる
- ・草刈りばかりやっている

- ・首都圏からの立地の PR
- ・市の広報で PR（ホームページの充実）



5

前回のふりかえり 将来像の実現のために必要なこと（大綱別）

大綱3 安全・安心に住み続けられるまち 〈環境・防災・医療・地域福祉〉

凡例 現状と課題 実現するために必要なこと ○いいところ、よくなったところ

大綱4・5 将来を見据えた暮らしや活動を支えるまち / 時代のニーズに応えられるまち 〈都市・交通・社会基盤 / 市民自治・都市経営〉

凡例 現状と課題 実現するために必要なこと ○いいところ、よくなったところ

環境

- ・歩道がせまい！道路もせまい！
- ・住民にやさしい道へ…
- ・道路の照明が暗い場所がまだある
- ・買い物に不便（車、バス）
- ・空き家が多い。管理する人がいない
- ・LED 照明化
- ・高齢の方への配慮として、市内バスの便数を増やしてほしい

利便性の向上 安全性の確保

分野共通

- ・自分事として住民の意識の変化
- 行動の変化！
- ・身の丈に合った運動を！！
- まずは足元から
- ・行政から自治へ

自分事、自治身の丈に合った運動

防災

- ・防災指導員のなり手がいない（女性）
- ・防災の担い手が高齢化している。若い力が必要！
- ・区ごとに防災体制に差があるように思える
- ・日頃のコミュニティが有事の際や防災につながるということ認識が低い
- ・有事の際は行政がなんとかしてくれるとの思い込みが強い
- ・市民が平和慣れしていて防災意識が低下している
- ・行政の防災計画が市民に広く伝わっていないように見受けられる

- ・各団体の任期を変更して、少しでもみんなに関わってもらおう
- ・各団体の担い手に少しでもいいので、手当的なものが欲しい（特権）
- ・LED 照明・蛍光灯のマップ作成（計画的な交換）
- ・防災訓練の内容見直し
- ・発災時の被害が少なくなる取組み

- ・地域の担い手不足 防災意識の差

医療

- ・地域の中核的な病院（がない）
- ・医療で総合病院がない（日赤では手術が出来ない）
- ・医療体制が少し不安な地域もある
- ・休日の救急当番医（病院）がたつたの定期で終わってしまう
- ・総合病院を作してほしい

地域福祉

- ・見守りネットワーク
- 変化があったら連絡（病院、自治会、民生・児童委員、老人クラブ、訪問介護員）
- ↑連携不足、タイムラグ
- ・他人事の方多い
- ・民生委員のなり手がなかなかみつからない
- ・地域のつながりが深い
- ・介護が必要になった際の受け入れ場所が少ない

- ・各団体の横のつながりを作るために、親睦会的なイベントを設けてもらいたい
- ・市が今まで以上に区へ働きかけてもらいたい（担い手の確保、定着）
- ・いろいろな場面で伝えられる事は伝えていく（理解してもらう）
- ・声かけが必要（一歩踏み出してもらう）

駅周辺

- ・駅が開閉している（にぎわいイベントなど区民努力が必要）
- ・駅西（将来像が見えない）
- ・今ならできる駅西開発
- ワクワクすることを公算

道路

- （既存の）道路環境の維持
- ・道路網が良いが舗装がひどく危険な所も
- ・歩道の整備。通学路などに歩道がない（幹線道路）
- ・車両のディスプレイを活用した路面把握による省力化
- ・道路維持の役割分担（草・タガタは近所のできるのでは…）

地域コミュニティ

- 地域には知識・経験が豊富な人がたくさんいる
- しかし、コミュニティが希薄
- ・住民の高齢化に伴い地域活動が小さくなりがち
- ・真に豊かなコミュニティの実現（自治会加入率だけでなく）

- ・コミュニティを町の中でアピールして行く。自治会の活用！
- ・コミュニティが事業を選択できる（交付金）
- ・裾野の歴史をマンガ化する（地元愛、子ども）
- ・地域おこし隊を市民から募集（やりたい人もある）

地域の担い手の育成

バス・公共交通

- ・バスの本数が少ない
- ・バスの自動運転化が遅れている → AI 利用
- ・人口減少に対応したバス路線の維持

- ・学校統合によるスクールバスを高齢者が使えるように
- ・三島～裾野・岩波まで自動運転
- ・バスの自動運転など AI を活用し、実証実験を行う
- ・自動運転のバス（スクールバス、老人バス）
- ・自動運転のモデルコースに提案→バス対策（運転できない人など）
- ・企業の代表者と話し合う（イベントなど）

- ・移動手段の確保 自動運転

高齢化

- ・車がないと生活できない町になっている
- ・高齢化で免許返納者が多い（タクシー補助券の問題）
- ・医院が遠く一人で行けない

- ・移動の自由の確保
- ・ライドシェア解禁への準備

独居サポート

- ・空き家が多くなっている
- ・独居老人の住まいがない → 市営住宅の場所・戸数
- ・保証人と大家の意向
- ・民間アパートを借上げた市営住宅
- ・IoT 機器（見守りセンサー）の普及促進
- ・地域包括ケアの積極的推進
- ・衣食住の充実→スーパー

自然のPR

- 自然の豊かさをキープ
- ・裾野の特性が生かされていない（観光・集客など）
- ・美しい町をアピールする場
- ・富士山やロケ地の活用

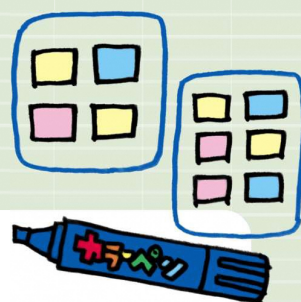
市政など

- ・投票率が伸びない
- ・スマート自治体として市民が実感できるものが少ない
- ・財政収支が前より良くない
- ・投票率向上（チラシ、教育、選挙啓、期日前の場所）
- ・FM 放送の開局→アピール

6

グループワーク

- グループ（施策の大綱）に分かれて、テーマについて意見交換します。



【テーマ】

「みんなが誇る豊かな田園未来都市すその」の実現のために、提案プロジェクトを考えよう！

グループ
発表は

20 : 15

7

意見の補足（10分間）



中間投票〈別室へ移動〉

※自分の担当以外の大綱の中から、**重点的に進めるべきだ**と**思う取組**を各自**5つ**選んで、●シールを貼ってください

※同じ取組に、複数枚貼らないでください

8

グループワーク ①

「提案プロジェクト」を選択しよう！

▼模造紙 1

- 他グループが貼った●シールの傾向を確認しましょう
- 自グループのまとめの「実現するために必要なこと」のうち、重点的に進めるべきだと思う取組を5つ選んで、●シールを貼ってください
- グループ内で意見交換を行い、特に重要だと思う「提案プロジェクト」を3つ抽出してください

大綱 1 ひとりひとりが役割を持ち輝けるまち 〈子育て・教育・健康・文化〉

区別 現状と課題 実現するために必要なこと OIいいところ、よくなったところ

子育て支援

- 乳幼児サポートが充実してきている
- 新人ママのサポートは充実してきている
- ・子どもを世話する（人）が足りない
- ・親子で気楽に集まることのできる場所づくり（子どもだけで行ける）
- ・小学生の放課後の居場所の確保
- ・子どもの居場所が集約できない。分散が必要
- ・外国にルーツを持つ子どもへの支援

コミュニティ

- ・地域の活動がわからない
- ・地域の教育力（＝子どもの名前を100人呼べる大人がどれくらいいるか）は高まっているか
- ・同じ地域、地区の人たちで集まる機会がなくなった
- ・近くに住む人がどんな人かわからない
- ・独居老人の地域参加
- ・老人のスキルの伝達（遊び・竹藪・農耕・芸術）
- ・地域内で子どもと大人が知り合う場を生み出す（例：自治会単位で何もない合宿）
- ・各学校、自治会で何にもない合宿をする
- ・大人から子ども、子どもから大人へ声をかけやすい近所づくり
- ・大人が参加したくなる地域イベント
- ・中学生間に地域との関係を切らない！
- ・核となる人材の登録制度
- ・地域活動同士の交流できる場を設ける
- ・各地域での好事例の紹介と模倣
- ・世代間交流を行える祭・行事の復活
- ・子供会役員の負担軽減
- ・全小中学校でのトークフォークダンスの実施
- ・住民同士が雑談する機会を生み出す（例：防災訓練でトークフォークダンス）

教育環境

- 「何にもない合宿」発祥の地！
- 夢（仕事）体験が厚い、リアル
- タブレットなど学習方法も新しくなり、楽しく学べる
- ・教育基本法第1条（社会の形成者の育成）を真ん中に置いて議論できているかどうか
- ・体験格差（経済的・時間的理由、価値観）→体験せいの再生産（悪循環）を止める
- ・高等教育を受ける機関（場所）が必要
- ・行かせたいと思わせる学校（高校）
- ・小中への地域の方の参加
- ・放課後イベントに、地域・学校の協働
- ・PTA 体験部！→体験の解消のため、主催と共催事業を積極的に

部活動

- 「消防団クラブ」（＝団員が指導者をつとめる多目的スポーツ教室、案分団）は裾野が広い
- 参加費、送迎不要
- ・部活動の地域移行（活動場所、指導者）
- ・部活動の参加率が低い
- ・スポーツ指導者になるための資格取得
- ・消防団クラブを各地区で！（消防団に頼る必要なし）
- ・複数のスポーツを体験する場所づくり
- ・ネットワークづくり（機材など）
- ・指導者講習会の開催

健康増進

- ・大人のスポーツ参加の機会
- ・スポーツ教室の計画・開催
- ・スポーツ施設の無償開放

生涯学習

- ・大人になっても学ぶことが出来る環境
- ・〇〇教室の開催

読み合う場 高齢者の知恵の伝承

体験格差 教育格差

その他

- ・公共交通の本数が少ない（バス・電車）
- ・魅力不足（人・物・金）
- ・買い物に車が必要（ホームセンター等）
- ・市外・県外に転出した方のふるさと納税（送礼品なし）
- ・コミュニティ交流の充実
- ・イベント版からは脱却すること

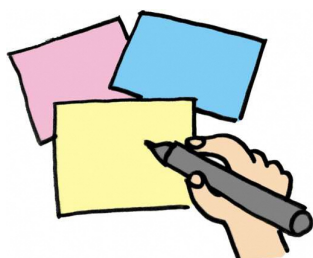
グループワーク ②

「提案プロジェクト」の内容を考えよう！

▼模造紙 2

- 3つのプロジェクトそれぞれに対して、必要な取組や具体的なアイデアについて意見交換を行います。

（目安時間：1つのプロジェクトで20分）



< プロジェクトシート >

大綱 1 『ひとりひとりが役割を持ち輝けるまち』

プロジェクト名	キーワード	取組

グループ発表

グループ
発表は
20 : 15

11

次回の予定

3月6日（木） 18:30～

於：裾野市役所

【テーマ】

プレゼン

「後期計画策定に向けたまちづくりの提案」を発表

- ・ 次回は、これまでのワークショップの結果をまとめた提案を市に対して行います。



12